

# 9月・10月の管理ポイント

9月に入っても残暑が厳しいですが、少しずつ涼しくなりベントグラスの生育に適した時期がやってきます。夏バテ回復・根の生育がスムーズに行われるように、ストレスの少ない生育しやすい環境を整えましょう。

当社Webサイトにて  
バックナンバー掲載中

<http://www.tomo-green.com/>



土壤水分環境を整えましょう

## レボ (REVO)

秋は、夏場のストレスでダメージを受けたベントグラスを回復させ、根を育てる大切な時期です。ストレスを減らしベントグラスの生育しやすい環境を整えましょう。レボは、「**地際を乾燥させる**（病害や藻を防ぐ）」「**根圏の水分を少なめに保持する**（気相の割合が増えるので根が十分な酸素を得られる）」「**毛管水が繋がる**（土壤中の水と空気が動く）」ので、土壤水分環境を、ベントグラスの生育に適した状態に保ちストレスを軽減する効果があります。最適な土壤水分環境を保つため、定期散布がお勧めです。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回



乾燥・過湿から  
グリーンを守りましょう

## プライマーセレクト

土壤全体に水を行き渡らせ適度な水分を保ちつつ、余分な水の排出を促すことで、ベントグラスが生育しやすい土壤水分状態を維持します。レボより土壤表層の水分を少し高めに保ちます。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回



ドライの予防と治療

## ハイドレーターG

ドライスポットの予防と治療にご使用下さい。土壤の乾燥が気になる部分に直播出来ます。1mm程度の粒剤なので、粉が舞いにくく散布しやすい剤です。安全性が高いので安心してご使用頂けます。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 20g/m<sup>2</sup>/週 予防10g/m<sup>2</sup>/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m<sup>2</sup>/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月



サッチの除去  
土壤微生物の健全化

## サッチマネージャー

自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある16種類の有用菌を選抜した微生物資材です。製剤1gあたり約400億個の菌が配合されているので、土壤中でも安定した効果が期待できます。ラフ・FWにはサッチマネージャー、殺菌剤を多用するグリーンには酵素剤がお勧めです。

使用量：ラフ・FW 0.1-0.2g/m<sup>2</sup> グリーン 0.5g/m<sup>2</sup> 散布水量 0.2-0.5ℓ/m<sup>2</sup>



弱ったベントの回復

## グリーンメカ

残暑が厳しいうちは高温によって芝の呼吸量が増加し糖を消費し、涼しくなってくるとベントの生育期となり糖の消費量が増大します。9月10月は、糖が不足しがちになります。グリーンメカでしっかりと糖を補給しましょう。糖が十分あると根の生育が旺盛になります。

使用量：2~10ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>



土壤中の有害物質除去

## 光合成細菌

土壤中に発生する硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく、根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は、硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壤微生物の住みやすい環境を作ります。サッチリムーバーと組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回



病害予防

## グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。更新作業後の保護殺菌としてお勧めです。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。

今年最後の殺菌剤散布は幅広い病害に効くグリーンオキシラン！菌密度を下げておきましょう。

使用量：ベントグラス 希釈倍率300-500倍 1-2ℓ散布/m<sup>2</sup> 日本芝 希釈倍率500倍 1-2ℓ散布/m<sup>2</sup>

日々の、芝管理で必ず溜まるサッチ。どのように対処されていますか？今のままで良いのでしょうか？更新作業が有効ですが頻繁に出来ないのも、サッチ分解剤を処理している方が多いのではないのでしょうか。今回はサッチとサッチ分解剤についておさらいしてみましょう。

サッチとは 枯れた芝草、剥がれ落ちた組織、刈りかす等が芝草の根元に堆積したものの糖類・アミノ酸、セルロース・ヘミセルロース、リグニン等で構成されている



### サッチが溜まると起こる、困ったこと

通気性・排水性の悪化      薬剤が効きにくい      撥水・過湿

病害虫被害多発      グリーン面が緩む(軸刈りをしてしまう)

分厚くなったサッチ層

もっとも有効なのは更新作業だが…

- ・手間、時間がかかる
- ・出来る時期や場所が制限される
- ・芝表面が荒れる

頻繁に出来ないので

**サッチ分解剤を処理するが多い**

サッチ分解剤とは？ セルロースを分解する剤です。微生物タイプ、酵素タイプがあります。

#### 微生物タイプ

セルロースを分解する「セルラーゼ生成微生物」

分解を手伝う微生物や物質、分解を手伝う物質を生成する微生物や物質を含む剤もあります



- ・土壌中の微生物環境健全化(有用微生物の割合増加)
- 分解促進
- 定着すれば頻繁な処理不要

セルロース分解以外に期待できる効果

バチルス菌が含まれる場合	乳酸菌が含まれる場合
病害抑制、分解促進効果	病害抑制、嫌気状態での腐敗菌抑制、肥料吸収促進、キレート作用

- 弱点
- ・効果が環境(温度、土壤水分等)に左右されやすい
  - ・混用、近接散布できない殺菌剤あり

#### 酵素タイプ

セルロースを分解する酵素「セルラーゼ」等

微生物から得られたセルラーゼ等を製剤化したもの



- ・効果が環境に左右されない
- ・散布直後から効果が得られる
- ・殺菌剤と混用、近接散布OK

弱点 残効性がない



殺菌剤  
混用・近接散布OK

微生物タイプ、酵素タイプ それぞれメリット・デメリットがあります。状況に合わせて使い分けましょう！